
キス。

永遠愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キス。

【Nコード】
N3365C

【作者名】
永遠愛

【あらすじ】
彼には言えない…あたしは、キスが嫌いだなんて。

（前書き）

昔の作品を新生 永遠愛として書き直しました！

「菜摘…」

「ん?…」

名前を呼ばれ、振り向くとそこには彼の顔が数センチの距離に

ドン!

「嫌…っ」

「え!?!おい、ちょっ…」

あたしのバカ!
最低!最低!最低!

【キス。】

「…っ…ハア…ハア…っもう…っ最悪だよー…」

…あたし、春瀬菜摘^{はるせなつみ}。大学1年生。

さっきまで彼氏の加地亮太^{かじりょうた}とデートしてたんだけど…

キスされそうになって亮太を突き飛ばして逃げてきちゃった…。

あたしは、キスが嫌いだ。

…嫌いというか、した事がない。

そりゃあ、大学1年にもなれば

それまでも彼氏はいたし、キス以上の事も経験済みだ。

だけど、キスは1度もしたことがない。

ずっと拒み続けてきた。

…理由？

理由なんてない。

“気持ち悪いから”。

えっちは相手と繋がって幸せな気持ちになるけど

キスは、口と口をくつつける意味がわからない。

無理。

絶対無理。

まあそれが原因で何人もの男にフラれてきたんだけど。

今回もフラれちゃうのかな…

嫌だよ、亮太…

すきだよ…

「菜摘！」

「亮太…」

呼ばれて振り向くと
走ってくる亮太の姿。

「…ハア…何だよ…？菜摘…ハア…どうしたんだよ？」

「あ……………」

言えない…

こんな息切れしながら走って来てくれたのに
キスが嫌いなんて言えないよ…

「…菜摘」

「えっ？」

「ぶっちゃけずっと思ってたんだけどさ、菜摘キスするの嫌？」

「え……」

バレてた！？

「こないだも俺がキスしようとした時そらしたろ？…菜摘俺の事嫌いになった？」

「ちが…っ！…………っ」

違うの…

違うのに…

「…言い返さないってことはそうなんだろ？わかった…」

亮太はあたしに背を向けて帰ろうとしてる…

もう…っ

しょうがない…！

「あたしっ…！キスが嫌いなっ！」

「…はあ？」

亮太はびっくりしながら振り返った。

「…亮太とするのが嫌なんじゃなくて、キスそのものが嫌いなっ！」

「…え？」

「…あたし実はファーストキスまだで！キス無理なの！」

「…何で？」

「何で…っていうか…口と口くっつけて何が楽しいのかわかんないし…とにかくダメなの！」

「……………」

ああ…フラれたな…

あたしとことんバカだな…

こんな街のど真ん中で叫んでフラれて注目浴びて…

…フラれたくないよ
すきだよ…亮太…

「…俺だってわかんねえよ」

「…へ？」

黙りっぱなしだった亮太がいきなり口を開いた。

「俺だって！口くっつけて何が楽しいのかわかんねえよ！」

「ちょ…っ亮太！」

口を開いたと思ったら
いきなり叫びだしたし…

…亮太

「…でも俺はお前見てるとしたくなるんだよ」

「え…」

「お前見てると可愛いとか抱き締めたいとかキスしたいとか…そういう気持ちになるんだよ」

「……………」

「お前はそうじゃねえんだな…」

ズキ…

亮太は悲しげな表情を見せながら歩いてく…

トク…ン

トクン…

何だろう、この気持ち…

“ やだよ ”

“ 行かないで ”

“ 好きだよ ”

そんなんじゃない

そんなんじゃない

“愛しい”

…

何だろう…

今すぐく亮太に

グイ！

「え…おい、なつ…」

キスしたい

…

「…ハア…ハア…」

あたしは無理矢理亮太の腕を掴み、人生で初めてのキスを交した。

「ハア…何だよ…！お前キス嫌なんだろう？」

亮太怒ってる…

そりゃあそつだよね…

でもね？

「…ごめん、…キス…したかったんだ…」

「…へ？」

「何かあたしも今…発情したかも（笑）すごいキスしたくなったんだ…」

そう…

“愛しい” そう感じた瞬間に頭で考えるより先に身体が動いて…

キス、したくなった…

「えー！？え…は？どういうこと！？」

戸惑いを隠せてない亮太。

トク…ン

「…ねえ」

トク…ン

「ん？」

“愛しい” …

「…もう一回しよ？」

あたしね

わかったんだ

キスって

気持ちいいからでもなくて

好きだからでもなくて

…愛しいから

したくなるんだね

…

「……………いいよ。」

【終】

（後書き）

本当文章力ないわあ（ ） 我ながら最悪ですね・感想、アドバイス
待ってます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3365c/>

キス。

2010年10月17日04時05分発行